



ふじ美が原

平成30年度最終号

富士見中学校



「何かをしたい者は手段をみつけ、何もしたくない者は言い訳をみつける」

三学期終業式

**「迷ったときほど遠くをみよ」
みなさんには、ぜひ手段を見つけ、本質を考える人になってほしい**

三学期を終えるにあたって 校長の話

ただいまは、一年生のKさんが、中学校生活一年を振り返って頑張ったことや二年生への抱負を、二年生のMさんは人を信用できるように頑張って自分も信用されるように、また成長したことを、三年生のMさんは、最高学年の今年を振り返り、喜怒哀楽の四字にたとえながら自分を支えてくれた仲間や保護者への感謝、高校での目標を発表してくださいました。三学期を終えて、皆さんそれぞれに自身を振り返り、新年度に向けて思いを新たにしてみてください。

さて、一年生は後輩を迎え入れて先輩となることも、学校を内から支える中核となります。二年生は最高学年となり、富士見中を牽引するリーダーとなります。三年生は、いよいよ新たな世界へと旅立ちます。今日は、皆さんに二つの言葉を送ります。その意味を理解しながら、今の自分に照らして、これからの自分自身について考えてみてください。一つ目は、アラビアのことわざです。それは、「何かをしたい者は手段をみつけ、何もしたくない者は言い訳をみつける」という言葉です。

皆さんは、日常生活の中で、個人で取り組むべきこととして、家庭学習や家の仕事、部活動のトレーニング等があるのではないのでしょうか。任された仕事やチームで取り組む仕事として、学級の係活動や給食・清掃等の当番活動、さらに委員会活動等があると思います。これらに取り組むとき、「さあ、やってやるぞ」という前向きな人は、「何にどのように取り組めばよいか」という、実行するための方法を考えます。しかしながら、あまり乗り気でないとか、できればやりたくない等の後ろ向きな人は、「でも、忙しいからできない」「だって、今は時間がないからできない」「だって、今は別のことをしているから

できない」等、「でも」や「だって」という否定語から言葉を発し、やらない、できない理由を見つけようとし、

さて、どちらの方が、将来、社会に出て活躍できるでしょうか。皆さんが中学校で学んでいる意味は、将来、自分の力で社会を生き抜く力をつけることです。アラビアのことわざである「何かをしたい者は手段をみつけ、何もしたくない者は言い訳をみつける」という言葉と自分を照らし合わせて、自分ほど自信のない人になりたいのか、将来、どのように生きていくのかを見据えて、新年度からの生活に生かし、是非、したいことやするべきことの手段を見つけようとする人となってください。

二点目の言葉は、ソフトバンクグループの創業者である孫正義社長の言葉です。それは、「迷ったときは目と遠くを見よ」という言葉です。これは、目の前にある様々な物事に悩んだり困ったりしたとき、近くの事はばかりに目を奪われてしまうと間違える。遠いことにまで思いを馳せて思考すれば、間違わずに解決の方策を導ける、という意味です。さて、ここで言う「遠く」とは、どんな意味なのでしょう。それは、物事について考えるとき、長期の時間の変化やその本質について思考をめぐらせる、という意味です。例えば、みなさんが下駄箱で靴を揃えたり、清掃で精一杯取り組んだり、大きな声で挨拶をしたりといった行動は、短期的に見れば「その姿が美しい」ということになり、しかしもっと長期的に見て本質を考えれば、皆さんが将来大人になったとき、自然な立ち居振る舞いで靴を揃えたり、任された仕事の責任を相手の期待以上に果たしたり、礼儀正しく挨拶ができたりという姿になることを目指していることとなり、誤、適否、整合等について判断するのにも、目の前に直面している現象だけでなく、もっと長期的に、そして本質に迫るよう、総合して考えたり、多面的・多角的に考えたり、関連させて考えたりすることが大切です。ソフトバンクの孫正義社長の「迷ったときほど遠くをみよ」という言葉を胸に秘め、本質を見抜くことができる

思考や判断につながってください。皆さんの来年度からの学校生活に期待します。私もこの二つの言葉を胸に秘め、頑張っていきたいと思えます。

一年間の振り返りと二年生に向けて 一年一部 K・M

一年間を通して一番心に残っている行事があります。合唱祭です。合唱祭では、クラスの心を一つにすることができ、歌の向上にも役立ちました。先輩方の歌声からもたくさんのお言葉を学びました。ぼくには、一年間を通して、成長したと思うことがあります。それは、勉強です。ぼくは、特にテスト勉強をがんばりました。それは、学校生活の中で勉強が一番大事だと思っただけで、自分としては満足できる結果を残すことができませんでした。これまでの学校生活を通して二年生で活かしていきたいことが三つ見つかりました。

一つめは返事とあいさつです。ぼくは返事やあいさつは大きな声でできると思っています。返事やあいさつをするとき、誰かが言うのを待たせてしまっていて、自分から言うことができませんでした。誰かに合わせて言っているようでは意味がないし、相手に伝わらないと思うので、自分からできるようにしたいです。

二つめは、二分前着席です。三学期、クラスの目標で二分前着席が設定されることになりました。しかし、ぼくは、友だちと話していたり本を読んでいたりで、授業の準備ができていないときがありました。二分前着席ができず、チャイムで着席してしまったりもあって、それが無いようにしていきたいです。

三つめは、人の話をしっかり聞くことです。授業の時に話を聞いていなくて、聞き直したり、違うことをしてしまったりするのは自分だし、周りに迷惑をかけることがあるかもしれない。しっかりと人の話を

を聞けるようになりたいです。これらのことを二年生で特に力を入れていきたいです。がんばります。

信用する心、信用される心

二年四部 M・Y

私は中学校へ入学するまで、なかなか人を信用することができませんでした。なぜかというところ、人を第一印象で見た目だけで、「この人は私のことを嫌っているんだ。」などと勝手に決めつけていたからです。しかし、中学校生活を送る中で、私の考えを変えてくれた人たちと出会うことができました。

その一人は、今いつも一緒にいる友達です。その友達とは、はじめは、つまらないことや小さなことで、私はすぐにカッとなつてしまい、ケンカになりました。その度に、先生に協力してもらいながら、ケンカを解決し、仲直りしてきました。その頃は特に、ケンカをするのはとても辛く、教室にもいたくないと思うことがよくありました。しかし、ケンカと仲直りを繰り返すうちに、いつの間にかその友達がとても大切な存在になりました。その友達とは、お互いのよくないところを言い合ったり、助け合ったりすることで、私の悪いところを一緒に改善してくれました。

次に、一人の先生です。その先生は、私に人を信じるきっかけを作ってくれました。先生は、私が中学校に入学してからずっと、私の近くで私の成長を支えてくれていました。私がケンカをした時、泣いている時、「話ししよう」と声をかけてくれ、私の話を聞いてアドバイスをしてくれたり、悲しいことを忘れさせてくれたりしました。また、二年四部のみんなと仲良く、そして楽しく関わることができると、最後に、二年四部のみんなです。私は男子と話すが苦手で、二年生になったばかりの頃は、ごく一部のひとしか話せませんでした。しかし、気さくに話しかけてくれたり、私のいないところで、私がクラスで居心地よく過ごせるように考えてくれたりしていることを知り、多くの男子と話せるようになりました。もちろん女子のみんなもです。クラスに入りづらい時には、迎えに来てくれて、「一緒に行こう。」と優しく声をかけてくれます。何をしていたか分からなかったり、不安で動けなくなったりしている時、「どうしたいの。」「緊張しなくて大丈夫。」「気にしなくていいよ。」など、励ましの言葉を言ってくれ、私を安心させてくれます。そうしてみんが陰で私のことを支えてくれていておかげで、私はクラスへ行くことが楽しく感じられるようになりました。クラスのみんなが私を受け入れてくれて、本当に感謝しています。

たくさんの人たちが私にかけてくれた言葉や行動で、私はもっと人と関わり、人を知りたいと思うようになり、人を信用することができるようになりました。私には人との関わりがうまくできないことがあり、失敗も多いかもしれませんが、三年生では、自分自身が信用してもらえないように、少しずつ自分から行動していきたいです。

たくさんの人たちが私にかけてくれた言葉や行動で、私はもっと人と関わり、人を知りたいと思うようになり、人を信用することができるようになりました。私には人との関わりがうまくできないことがあり、失敗も多いかもしれませんが、三年生では、自分自身が信用してもらえないように、少しずつ自分から行動していきたいです。

一年間の振り返りとこれからの目標

三年二部 M・K

今年、一年間を振り返り、僕の一年は「喜怒哀楽」という言葉に象徴されるような一年間であったと感じています。

優勝や合唱祭の金賞などのように、去年獲得することができなかった結果をクラスで獲れたとき、そして、志望していた高校に合格することができたことです。喜怒哀楽の「怒」とは、テストの点が思うように伸びなかったり、授業中に発言できなかったりし、自分に対する情けなさを思ったことです。喜怒哀楽の「哀」とは、部活の中心で最後の大会で悔しい負けをし、引退した瞬間や三年最後の白鈴祭が終わってしまったときの気持ちです。喜怒哀楽の「楽」とは白鈴祭が成功し、みんなの気持ち盛り上がったときや学年のクラススマツ

チで自分のクラスが賞を取った時などの瞬間に実感しました。

こうして振り返ってみると、楽しいことや辛いことがありましたが、この一年間にはあきらめない充実した毎日を過ごすことができたと思います。それができたのは、今まで伝統を作ってきた先輩や、僕を支えてくれた保護者や後輩達、同じ学年の仲間や先生方の支えがあったからこそだと思います。

四月から、僕は県外の高校に通うことになりました。その高校は、富士見中学校より規則が厳しい学校であると感じています。自分の将来の夢のために自分を高められる、将来の夢に近づくことができる高校だと思い、その高校に行くことにしました。高校に進学したら、自分自身でやらなければならないことがさらに増えてくると思うので中学校生活を学んだことを生かし、一步一步着実に自分の道を歩んでいきたいと思っています。そして、この学年の仲間といられるのは明日で最後になります。三年間を共に過ごしたこの学年、この仲間と卒業して良かったと思える、悔いの残らない最後の日にしたいと思います。

平成30年度の終わりに・・・ 一年間、大変お世話になりました。

本日、無事、第9回卒業証書授与式を挙行することができました。128名の卒業生が、今後も健康で活躍されることを祈っております。又、4月より2・3年生となる在校生には、ますますよい学校を創り、ともに伸びていって欲しいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様、この一年間、大変お世話になりました。来年度以降も引き続き富士見中学校の教育活動にご協力いただきますよう、お願いいたします。学校職員も全力を合わせて精一杯努めたいと存じます。

◆転退職員紹介◆

平成三〇年度末をもって転退職になった職員は、次の通りです。

- ☆曾根原好彦(学校長) 県教委学びの改革支援課
- ☆茅野 正和(三年・社会) 岡谷市立岡谷東部中学校
- ☆宮澤 葉月(二年八部・数学) 退職
- ☆曾根原知宏(一年・理科) 辰野町立辰野中学校へ
- ☆星野 郁馬(三年・美術) 飯田市立緑ヶ丘中学校へ
- ☆柳澤 宏美(一年・英語) 中野市立豊田中学校へ
- ☆植松 秀生(初任研指導・保体) 茅野市立東部中学校へ
- ☆矢沢五輪男(事務主任) 原村立原小学校へ
- ☆石川 春香(生徒支援) 長野県諏訪養護学校へ
- ☆小池六左工門(事務職員) 富士見町立境小学校へ
- ☆五味 美幸(給食調理員) 富士見町立境小学校へ
- ☆松井 真美(給食調理員) 富士見町西山保育園へ

任期の長短はありますが、いずれも家庭や地域の皆様にお支えいただいたことと感謝申し上げます。大変お世話になりました。

富士見町立富士見中学校
諏訪郡富士見町富士見四六五四番地
TEL 0266-621-2009
担当 油井 彰